ある東北の小さな町

粧品

フジタ

おしゃれの店 YANO

おしゃれの店 YANO

蝶よーう
ナーヨウォォ
花よとォ〜
ハアーヤレヤレ
育てた娘を
ヨオォ…

ケーキ

家具センター

ホウ
吉日だな……

きょうは他人の
手にわたす
……か

HARE NCHI

考

高橋高雄 作

蝶よ花よと育てた娘
きょうは他人の手に渡す
笠を手に持ち皆様さらば
重ねがさねのいとまごい
七棹八棹の長持よりも
娘の宝は心持ち
故郷恋しと思うな娘
故郷当座の仮の宿
（秋田長持唄より）

判決

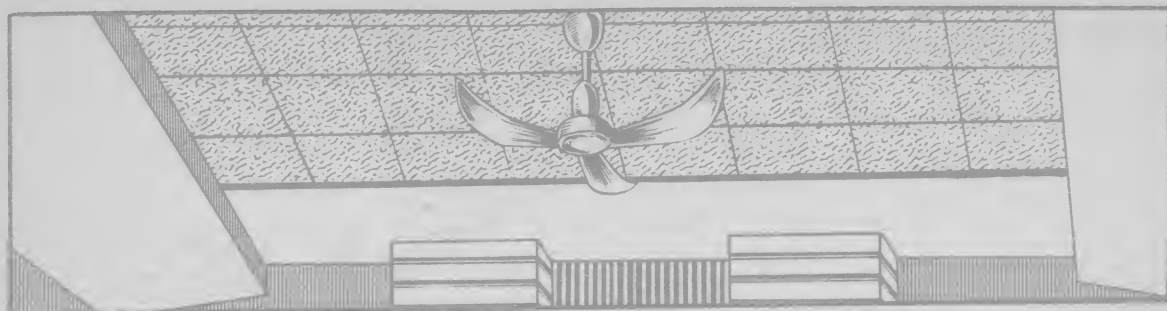
懲役二年六カ月に処する

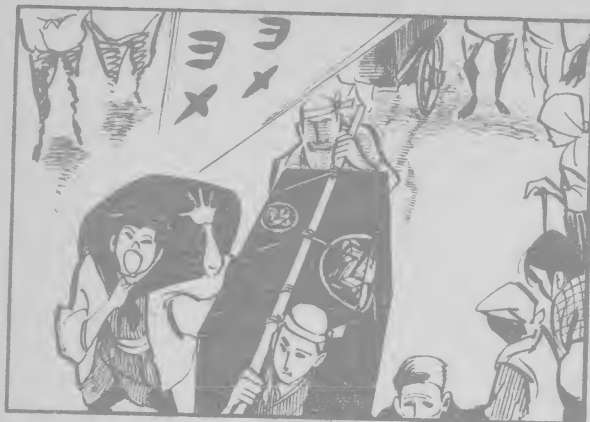
ただし本刑確定日よりむこう三年その刑の執行を猶予する

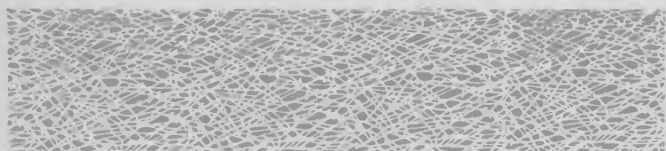
入選作品

長持唄

貧しい東北の山村の嫁は
全く良く働く
子供などにはかまってい
る暇はない

グ
グ

だから子供のやけどや
水死、病気の手遅れが
多くその後を絶たない

この法廷は………
火傷で顔半分がとろかされた娘の
将来を思うあまりに、母親自らの
手で愛し子を死に至らしめるとい
う殺人事件の公判であった。
判決は軽いものであったが、それ
はおそらく世間の耳目が涙と同情
で支援した賜であったかも知れな
い…………

長持（ながもち）というのは布団などを入れる家具の一種で､大きさが0.6m×0.6m×1.5m程の木製の箱のことである。江戸時代には、たんすと共に重要な嫁入り道具の一つであったが、今日では生活様式の変化に伴い実用性を失い、ほとんどすたれてしまった。しかし、当時の婚礼（嫁やり、嫁とりという呼び方をしたが、今日の結婚式とは大分ニュアンスがちがう）における親子の情や、女の社会的地位、宿命といったものを、切々と唄い込んだ祝唄として今日も東北地方には残っている。

名前をトキといった。
去年から小学校に入学する年齢ではあったが、いまだに学校へ行っていない。そして外出時はいつも白い包帯でその傷痕をおおっていた。

実家へ用があるといって娘を連れて出かけたのはそれから三日後だった。

ここで少し休んでいくべ

ウン

あーあ つかれた

ドッコイショ！

あはーおかあさん汗かいて！

トキもこんなにかいた

んだけどこっちの顔は汗かかねエナおかしいナ

?

どれ
ホウタイとって
ける……
おれも見てねェ
こっちきさこい

やだ
やだ!

なして……
なしてやたの
ホウタイとる
のやだのか?

あば！
おっかねェ
顔して

やだやだ
おっかねェ
顔するから
やだ！

トキ！
どこさゆく
またねェか
！

シーン

うぅ

トキ〜
〜トキ
ううっ

ゆるしてけれ
ゆるしてけれ
トキ……

笠を手に持ち
皆様さらば
重ねがさねの
いとまごい

家具センター

つよくなったか……

あの頃の娘たちとはまるで……

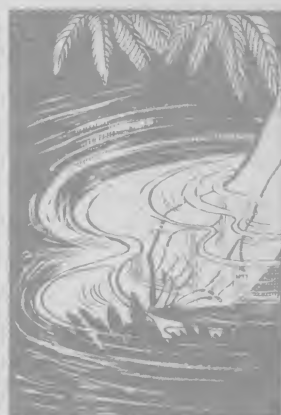
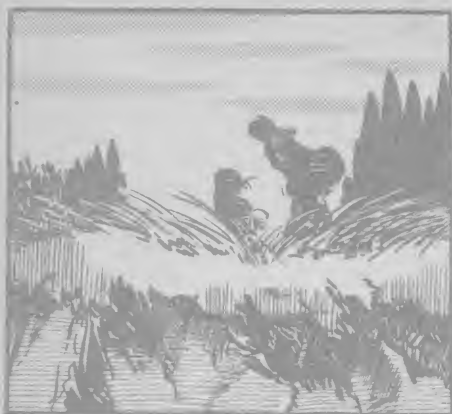
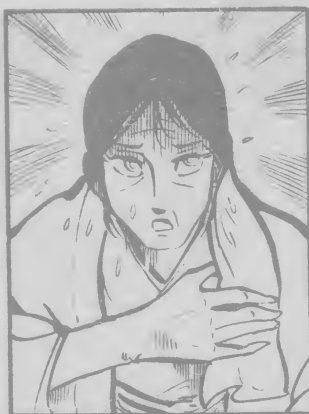
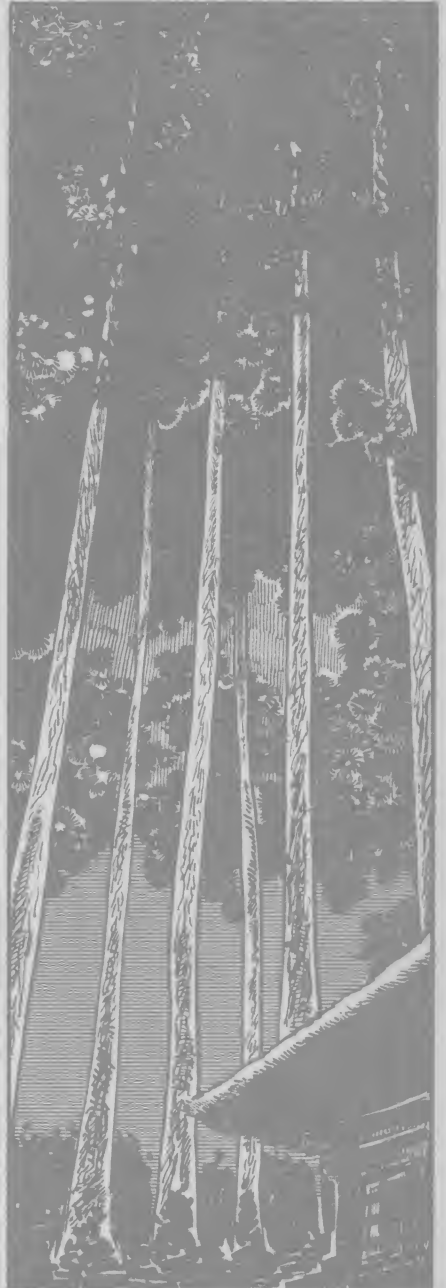
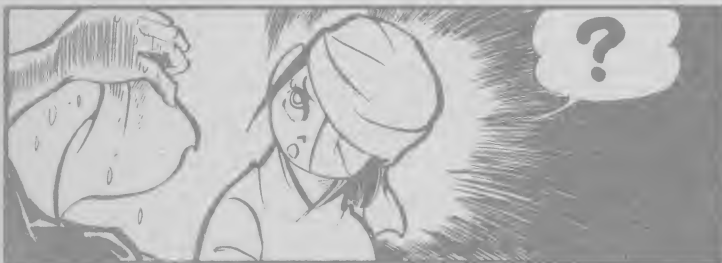
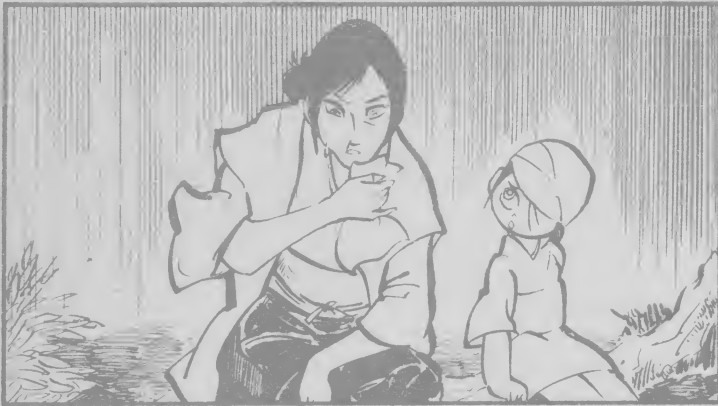
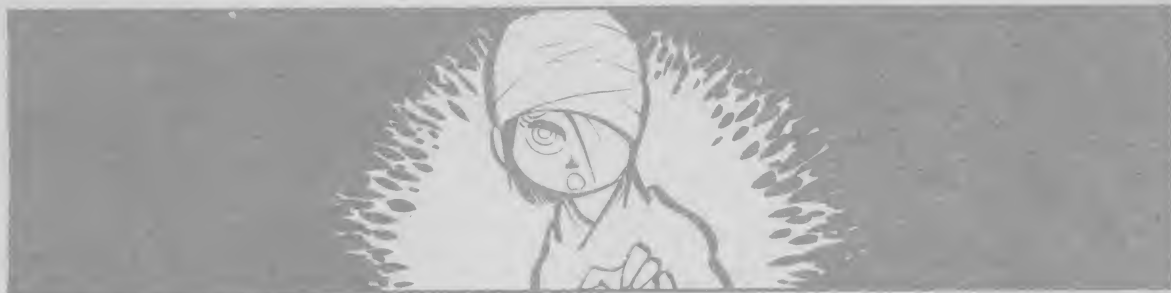
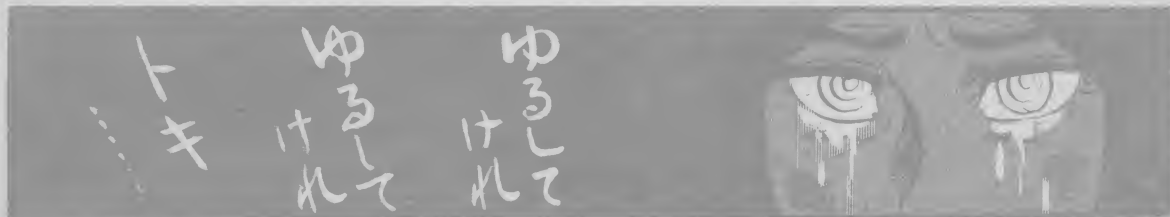
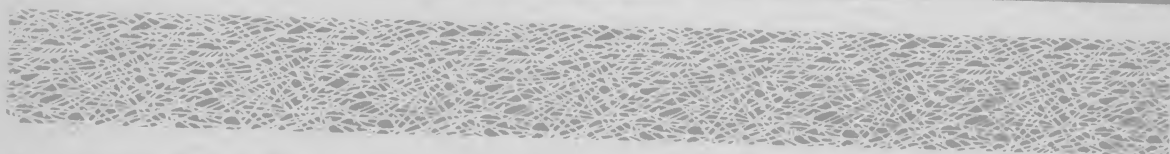
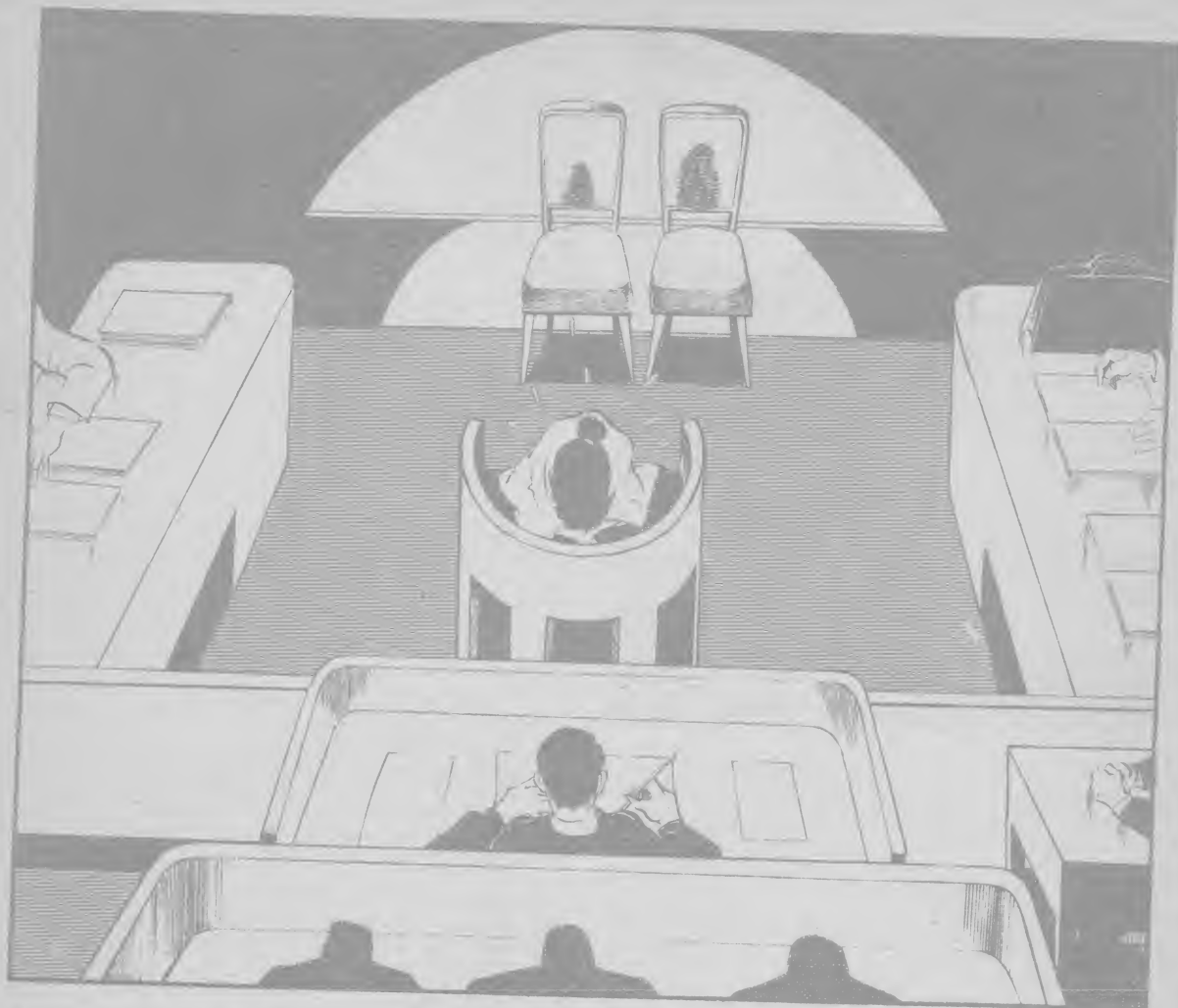
何を考えているのかさっぱりわからん

スポーツと文具

肉

故郷恋しと思うな娘
故郷当座の仮の宿

長持唄考

完

この物語はすべてフィクションです

読者サロン

おふみさんはどこにいるの

溝江裕喜美（青森・21歳）

げんまいパンのホヤホヤ　おふみさん私は今、百姓屋の屋根裏で貴女を想っていたところです。パルミジァニーノの自画像の次におふみさんが好きです。パルミジァニーノさんは男です。でも少女のようなので愛してるの。階段からコロゲ落ちる猫のようにおびえて、いつもビクついてめったに人にあいませんのです。冬は破れたガラス窓から雪が、夏は雨が私を誘惑しています。

近所の白痴の少女と24歳位の白痴女といつか一緒に歌謡曲を唄っていましたのを思い出す。おふみさんの尻が思い出させたのです。白痴の哀愁があって私は泣いてしまいました。彼女らの青春はいつまで続くのでしょうか　可哀想で比もでない程です。推察しますと、彼女らはいつもきれいな薫風の香を持ってます。おふみさんのようなわきげのほほえみです。私はとても悲しく妊婦の栄養に視線をむけてなんかいられたもんじゃあありませんでした。

おふみさんのような、かわいいひとはどこにいるのです。私は滝田ゆうの太った腹にでもたずねたい気持でいます。私は昭和40年からここの屋根裏、（津軽ではマゲといいます）にただひとりいます。クモとネズミと猫もいますけど、毎日本と沈黙のプレイにふけってます。働かず4年間ただただ海を見、山城に登り、湖面を見たりしています。城跡へ行くと必ず雨が降りたまには虹がかかる程、私の精神的霊感はさすらいます。「ガロ」を山で良くみるのもそのせいです。白痴の真ねをしてヘビにかまれるところでありましたもんです。静かで静かで狂いそうな所で「ガロ」を読むとむしょうにおかしくてすぐ笑ったりわざと後できづいたふうにして笑ったりとにかくおもしろいです。

津軽半島は下北半島よりも神秘的で昔源義経がクソをふった所もあります。し、ある天皇のかくれ穴もあるのです。ここから出た土偶は宇宙人の姿だそうです。エゾ（アイヌ）人や和人に芸術をおしえたのは宇宙人でしょう。だからやたらと抽象的なものを彼らは作ったのです。「ガロ」の中にあるムードににているかもしれないなあ。キヨシ君のような男の子がエゾ館（アイヌ人の住居だが武士のように城を作って堀をめぐらしたもの）で大昔はいったいどのようにして歩いていたでしょうか。

おふみさんはきっと結婚などしなかったでしょう。そうだとても嬉しい。つりたくにこさんの作品が見たい気持になりましたところです　おふみさんお元気で、さようなら

面白いのは「カムイ伝」のみ

丸山　修（東京・17歳）

漫画というのはやはり内容を持つもので、その内容は簡単に言えば、「作者の訴えたいこと」なんで、それがない漫画は、「単におもしろい漫画」か、「全くつまらない漫画」になるのがおちです。作者は自分の読者に訴えたいことを連続的な画で（一コマ漫画は論外）表現するために、「なぜここにこのコマがあるのか」「どうしてこんなセリフを入れるのか」「この人物の表情はなぜこうでなければならないか」「こんな線を使うのはなぜか」をすべて考え、一コマ一コマに意味を持たせる、なかには意識的に「無意味」という意味を持たされた「無意味」なコマもあるだろうが、単に無意味なコマはいい作品ほど少ないものだ。逆もまた真なり。

そして、作者は自分の思考を漫画に表現するが、いったん漫画に表現されてしまったら、作者はもうものを言えなくなる。あとは彼の作品がものを言うだけで、読者は作者からじかに彼の真意を聞くことはできない。ただ彼の作品から理解するだけなので、だから「わからない」ということはその作品にとって致命的なのだ「わからない」とは「何かがその作品中にあるようなのだが、それを感じられない」ということで「結局、何もなかった」とわかると、それは「全くおもしろくない」ということになる。

そういうことで「ガロ」の作品を見て見ると、やはり白土三平さんの漫画は群を抜いている。ただ「カムイ伝」が近頃つまらないのは、ぼくも感じていることだが、それは、誰かが、この欄で、「大木が枯葉をのばすが如く」と表現していたが、まさに大木が枝葉をのばすが如くがっちりと進められてきた物語の展開が、急にくずれて、何か、急にいそぎ出した感じがするんだが、大飢饉を契機に正助たちの生活かこわされてゆくそのすごさはよく表現されているが、それが過ぎて、作品までこわれてしまいそうです。結論を急ぐあまり物語を雑にしてはつまりません。

林静一さんのはムダなコマが多くて、セリフと画との関係がわからない「わからない」というだけで非難する気はないけど、全然感じないんだものしょうがない。

佐々木マキさんの漫画も画とセリフがばらばらで、使われている画やセリフの意味がいくら考えてもわからない。画と画との関係もないみたいだ。彼の漫画は言語範囲内で理解するのは窮屈だそうだけど、それでわかった「ことば使わないで思考できる人間はいない、つまり人間は誰でも言語範囲内でしか思考できないんだから、マキさんの漫画は考えても理解できないということだろう」ただ彼の思考でなくて感情を漫画の映像をとおして表現したというなら、ぼくは何も感じないとしか言えない。「ガロ」の漫画はどうも白土さん以外は思いつきの作品や、作意的な作品が多くてちっともおもしろくない。編集者よ、しっかりせよ。

滝田ゆう氏のことを思って

保坂幸司（北海道・16歳）

滝田ゆうの絵、あの線は野坂昭如の文章ですね。エログロナンセンス。醜悪。それから道化の悲しみや哀しみ。良いと思います。だから初めてその絵に接したときなにやらなつかしいような気がしましたねェ。

笑おう笑おうと思っても声になって出てこないもどかしさがすぎると哀しくなってきます。初期の作品よりおちついてきましたね。女の人の顔。それ

かお笑いタイミングす
教室では林静一と同じくらい人気が
あるようです。敏も二・三人しかとる
でませんが、登場人物はみなすぐつまり
でボロ切れに石油をかけて火をつけた
ような顔をしています。もしかしたら
滝田ゆうさんは開き直った人なのです
か。開き直った人にしかああいう漫画
は描けないのですか。
しかしほんとうは正義を愛する月光
仮面の様な方なのかもしれません。ほ
んとうは腹をたてて怒っているのでし
ょうね。だから哀しいのでしょう。
滝田ゆうが見せつけてくれる虚構の
世界は幅広いところに特色があると思
います。そのうちに天皇ヒロヒト様の
こともおしえてほしいと思います。ス
チャラカチャンスチャラカチャン。

自己を語るマンガ家たち

秋山誠一（東京・19歳）

自己を語ろうとしたとき、……マン
ガ家は「マンガ家」を超え、マンガは
「マンガ」をはみだしたにちがいない。
ボク達は、『ガロ』に、そして、
『ガロ』にのみ、そういった人々のす
ばらしき群像をみることができる。こ
こでは二人だけをとりあげる。

滝田ゆう氏　彼がかつてかいてい
たマンガは、わずかながらどこか生活
を伝えたにしても、それはやはり〝読
みすてるマンガ〟だった。けれど、自
らを語ろうとしたとき、大げさに言え
ばどうしても語っておきたいことを定
着させようとしたとき、彼は今の彼に
なっていたのだ。

神父は「神父の休日」で、何故つ
いに軍服を着なかったのだろう。そし
て、そもこの男を神父にさせたのは、
どのような過去だったのだろう。それ
にしても、氏の例えばヴェトナム戦争
に対する執着ぶりはどうであろう。そ
れを、氏の裡から必ずとつけるものでは
何なのだろうか。

こうしてボク達は、12月号をひらいて、
おどろき、また一人をなげいた。「手
品師奇譚」……この連作は、画法の成
熟と相俟って、氏にとって記念碑的な
ものになるにちがいない。もちろん僕
たちにとっても。

つげ義春氏　最近氏の39年度作品
「見知らぬ人々」をみることができた。
これは、「噂の武士」所収の「不思議
な手紙」「古本と少女」と同「噂の武
士」以後の作品はほぼ『ガロ』に掲
載」とをつらねるもので、すでに銘打
ってあるムード・ミステリーをとおく
はみだし、いわゆる〝人生〟場面〟
をえがきこんだものだった。

ところで、ボク達は、鈴木志郎康と
の対談で、つげマンガの登場人物が、
「全部頭の中」のものであることを知
って、まずおどろくのだ。何という手
品師あるいは思想家。そして、死にゃ
ないですけど、死んだ感じ」自分か
そこにいるんだけどいない感じ」を抱
きながら、とうとう「ねじ式」とつゲ
ンセンカン主人」にまで到達してしま
った。あとはひたすら、次の　そし
てひとつのおわりになるかもしれない
作品を沈黙をもって待つばかりだ。
あまりに根源的な衝撃にたえながら。

冴えてる奴もいるなあ

川口伸哉（三重）

『読者サロン』において、最近、特
に佐々木マキ、林静一に関するむずか
しい論評がおこなわれ、論争もさかん
なようです。

さて小生、何ゆえに『ガロ』をみる
かということは、他に読むべきものを
さほどもたないからであります。小生
の『ガロ』に対する感想は、〝世間に
はサエてる奴もいるんだなあ〟という
です。余りに貧弱すぎるのです。それ
は、小生が難解らしき佐々木、林、ま
た白土、水木漫画をいかに解釈すべき
かという才能に欠けてる結果だと思っ
ているわけです。小生の漫画観は、ま
さに単純なものなのです。それは、映
像」であると思っています。それゆえ
に、漫画作家の、他者（読者）に対す
る、一方的な意志表示であり、それ以
外の何ものでもない、と思っています。
だから、読者が、映像を、作家をいか
に解釈し、批判するかはまったくの自
由であります。

しかし、特に、佐々木マキにおける
イメージとしての映像は、すでにコミ
ュニケーションの手段であるかどうか
疑わしく、またその存在そのものを問
わねばならないと思われます。言語
をまったく必要としないゆえに、読書
に対するより強力なイメージとしての
問いかけになっていると思われます。
しかし、反面、言語を必要としないイ
メージとしての映像は、読者（他者）
に対する問いかけの枠を決して超えて
ゆくことはできないと思います。

くどいようですが、〝映像〟そのも
のに、小生は、体質めいたものを感じ
ています。それは作家が、作品に対し
て他者の眼をもちうるのかどうか疑問
であるからです。逆説として、作家に
よる映像が余りに増産されすぎること
にあります。非常にくたびれなかった
です。　そこでは一つのイメージンが、
具体的な姿でもって、作家の前に沈澱
された結果であるか、疑わしいのです。

たしかに、映像、特にイメージは強
力だと思います。しかし、それ以外の
何ものでもなく、すべてが終ってゆく
のじゃないかと、小生、ふっと思った
りします。

マンガに関する参考文献案内

●**怪奇への思慕―水木しげるの世界**　星野匡　「ada」二号
●**最近の漫画をきる**　石子順　「青年運動」43年12月号
●**みなぎる悲哀―白土三平**　石公郎　「現代の日本」12月号
●**戦後派による新しいマンガの探究**　石子順造　「読書人」12月2日号
●**児童文学と児童マンガ**　小沢正・佐藤忠男・梶原一騎　「日本読書新聞」12月16日号
●**現代への悲愁―水木しげる**　石公郎　「現代の日本」44年1月号
●**ユメはプロのマンガ家に**　「アサヒグラフ」1月17日号
●**つげ義春覚え書**　天沢退二郎　「展望」2月号
●**マンガ情況論**　黒田義雄　「立命評論」三七号